

「その人自身を見て」

粕屋東中学校 一年 岩田 あやか

非行とは、一般的にみて、違反行為ではなくても、習慣的規範に照らして反社会的とみなされる行為のことを言い、主に、未成年を対象とした、学校内などで行われることです。

私の生活は朝起きて、家族と「おはよう」と笑いながら会話をし、おいしい朝ごはんを食べたあとは、学校へ行き勉強し友達と楽しい時間を過ごし、家に帰ると、温かいご飯や、お風呂が用意してあり、自分の好きなことをした後、安心して暖かいふとんで寝るといふ幸せな毎日を送れています。しかしそのような生活の中でテレビをつけると、本当に同じ世界であっているのかと疑いたくなる程、私の生活とは真逆の事項が流れてきます。例えば、犯罪組織で、受け取りのコマとして使われ犯罪を任う未成年の人達のニュースや再婚した父から娘へのぎゃくたいをして、最悪の場合、死に至ったというニュースなどが流れてきます。

私は、いつもこのようなニュースを見て、(なぜ、ぎゃくたいをするんだろう。)(訪問などを何度もしているのに、なぜ気付き助けられなかった。)と悲しみと怒りと同時に、自分の置かれている環境がどれだけ幸せなのかと思います。そのような思いの中でこの非行や犯罪を犯した人達をどのようにして社会復帰させていくのかも大きな問題としてあげられていきます。非行や犯罪を犯した人達の多くには、過去に暗い経験があり、自分自身もぎゃくたいを受けていた人や、ネットなどでの悪い関係性を築いてしまった人などがいます。でも、私はどんな理由だとしても、誰かの大切な人の心を傷つけたり、時に人を殺めた人を絶対に許すことはできません。しかし、そのような人達が社会復帰をしたり、同じあやまちをくり返さないためには、その人達が反省し、新しい人生を歩んでいくことを認め見守っていくことが大切だと思います。

そんな中私が住んでいる地域では、小さな活動ですが、様々なことが行われています。例えば、子ども食堂や地域での交流会などです。私は、このような場面を通じて、いろいろな人と関わる機会をつくることは、心が静んでいる人を救う為に必要なことではないと思います。私の身近でも、ぎゃくたいなどは、程遠いですが、人間関係でのトラブルがあります。私が入っているクラブでは先輩と後輩の関わりが多く、トラブルがよく起きます。その中には、うわさ話などが広がっています。例えば、今の私には、とても仲の良い先輩がいるのですが、その子は、いじめなどしていいのに、部内では、事実を確認できないままいじめと話を広げ当事者ではない人たちが、話を広げ違う形で伝わっていることがあります。私はこの状況をみてなぜ本人がみたりきいてもいないのに、知ってるように言うんだろうと思いました。私は、このような体験を通して、人は、先入観だけで、区別してはいけないと思います、その人の真実を知ることが大事だと思います。そして、それは、犯罪を犯した人を認める上でも重要なことではないのかと思います。

私自身もこれからの学校生活や、日常生活を送る中でも、人と接する時には、うわさ話などだけで、その人自身を判断するのではなく、本当のその人を気づくことに気をつけていけたらと思っています。